

河川8 土器川環境整備事業(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川4	建設省四国地方建設局香川工事事務所編「土器川―直轄改修20周年を迎えて―」(四国建設弘済会、1988年)、39頁	河川環境整備事業 (中略) 土器川においては、昭和46年度から着手し、これまでに約41ヘクタールの高水敷の整備を完成させ、流域市町が公園施設を整備し地域住民が開放的な空間利用を満喫できる場を提供している。また昭和60年度からは、香川県が進めている大規模自転車道(起点丸亀市から土器川を経由し、琴平町、更に財田川を経て観音寺市に至る全長約37km)の事業とタイアップして、下流左岸土器地区の整備を促進している。この整備にあたっては、丸亀市が進めているアメニティタウン構想に呼应し、この区間を親水ゾーンとし、低水護岸については治水機能に加えて景観・親水性に配慮し、工夫を凝らした「親水護岸」を試行的に採用しスタートさせている。
香川120	国土交通省四国地方整備局編「土器川川西地区環境整備事業(事後評価)」(平成18年度第2回事業評価監視委員会資料、2007年)、6-11頁	完成後確認された事業効果 (1)年間利用者数の変化 (中略) 事業前の平成9年度と事業後の平成15年度を比較すると、年間約7.2万人増加している。 利用形態別では、スポーツが大半を占め、釣り、水遊びはほとんど見られない。また、利用場所別でも高水敷が大半を占めている。ただし、整備後の平成15年度において、堤防の利用が増えており、事業による効果が伺える。 (2)その他の効果 ①利便性及び景観の向上 幅広階段、木陰の遊歩道、緩くて広い坂路の設置により、堤防と河川敷とのアクセス性が向上し、大会利用時においては、階段を観客席としても利用できるようになった。 また、事業前はコンクリートブロックによる人工的な護岸であったが、緩傾斜盛土による護岸緑化等により、高水敷の芝生とも調和が図れて河川景観が向上した。 ②利用者による評価 土器川公園利用者に土器川公園の現状についてヒアリング調査を行った。 それによると、土器川公園は利用しやすいと感じており、特に、堤防等の周辺環境との調和、階段、坂道等のアクセス性について高く評価されている。 また、整備前(平成10年頃)の状況を知っている利用者によると、堤防等の周辺環境との調和、階段、坂道(スロープ)等のアクセス性の向上について、良くなったと感じている。 その他、整備前に比べ、サイクリングや散策をする人が増えたという意見や、堤防が整備されたことにより交通量が増え、駐車場からグラウンドへ降りるために道路を横断するのが危ないという意見もみられた。 ③土器川体育センター(サン・ビレッジ土器川)との相乗効果 土器川公園に隣接している、土器川体育センター(サン・ビレッジ土器川)は、バスケットボールコート1面、バドミントンコート6面、バレーボールコート2面、卓球12面、移動式観覧席(280席)を備えたアリーナと多目的ホール、ミーティングコーナー、更衣室を備えた施設であり、事業実施後の施設利用者数は年々増加傾向にある。

河川8 土器川の環境整備事業(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川127	国土交通省四国地方整備局編「土器川総合水系環境整備事業(事後評価)」(平成22年度第5回事業評価監視委員会資料、2011年)、20-22頁	土器川総合水系環境整備事業の効果 (1)完成後確認された事業効果 ①高柳地区(飯山水辺の楽校) 「せせらぎ水路」や「おじよもの池のビオトープ」、「親水テラス」などの整備を行い、「水辺の学校」として子どもたちの自然観察や土器川の歴史・文化等を体験学習する場など、安全な「遊び場」や「自然学習の場」として積極的に利用されている。 ②垂水地区(土器川生物公園) 「霞」内の広い空間等を利用した水と生物に親しめる公園として、夕涼みコンサート、ホタルの幼虫放流、自然観察会などでの利用をはじめ、子供や家族連れのにこいの場となっている。 土器川特有の伏流水取水施設である出水(すい)からの湧水を利用した「せせらぎ水路」や「じゃぶじゃぶ池」などの整備により生物の生息・生育空間、自然学習の場が形成されている。 地元のボランティアにより魚類調査活動などが定期的に行われている。 朝夕は、自然豊かな公園内での地域住民の散策姿が多数見られる。 ③長尾地区(長尾ふれあいパーク) 地域の方々の散歩やウォーキングなどのほか、広い河川敷広場を利用して高齢者を中心にグラウンドゴルフ大会などが開催されている。 花公園では地域ボランティア(地元老人会)によって花壇の植栽や手入れが行われ、四季を通じて花畑が親しまれている。 高齢者と園児などの交流会(サツマイモの収穫、コスモス畑の迷路体験等)が催されるなど、「水辺プラザ」として世代を超えた交流が実現し、にぎわいのある水辺が実現している。 (2)その他の事業の効果 ①高柳地区(飯山水辺の楽校) 水辺に近づきやすい環境、トイレ、あずまやなどの施設が近接していることから、バーベキューなどにも利用され、地元の丸亀市のほか、高松市など遠方から訪れる利用者もみられる。 ②垂水地区(土器川生物公園) 平成22年に公開された映画「きな子～見習い警察犬の物語～」の撮影現場にも使われるなどにより知名度が向上し、地元の丸亀市のほか遠方から訪れる利用者も多い。 ③長尾地区(長尾ふれあいパーク) 飛石工を設置することにより良好な淵が形成され、多様な生物の生育環境が形成されている。 地域ボランティアの方々の維持管理活動について、平成18年度に『第17回全国「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰』、平成21年に『同総理大臣表彰』を受賞するなど、活動内容や質について社会的な評価を受けている。
香川158	国土交通省四国地方整備局編「土器川水系河川整備計画－土器川の河川整備(国管理区間)－」(国土交通省四国地方整備局、2012年)、80頁	河川空間の利用 土器川の河川敷には、数多くの河川利用施設が整備され、これらは大規模自転車道や堤防道路の縦断ネットワークでつながれており、スポーツ広場や公園などの憩いの場として、また、祭りや花火大会などのレクリエーション活動の場として多くの人々に利用されている。

河川8 土器川の環境整備事業(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
四国1	四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、630頁	河川環境整備事業 土器川における直轄河川環境整備事業は、昭和四十六年度より事業着手した。五十九年度末までの高水敷整備は全体で約四〇ヘクタールに達し、香川県整備の川西運動公園ほか、丸亀市・飯山町・綾歌町・満濃町の各市町が公園施設を整備し、地域住民の憩いの場として広く利用されている。 六十年度より、香川県の大規模自転車道整備事業との合併事業により、下流左岸土器地区(丸亀大橋～高柳橋間延長二・四キロメートル)の高水敷整正に着手し、低水護岸については試行的に「親水護岸」を採用し地域に親しまれる河川環境づくりを進めている。